

肝付氏の出城分布

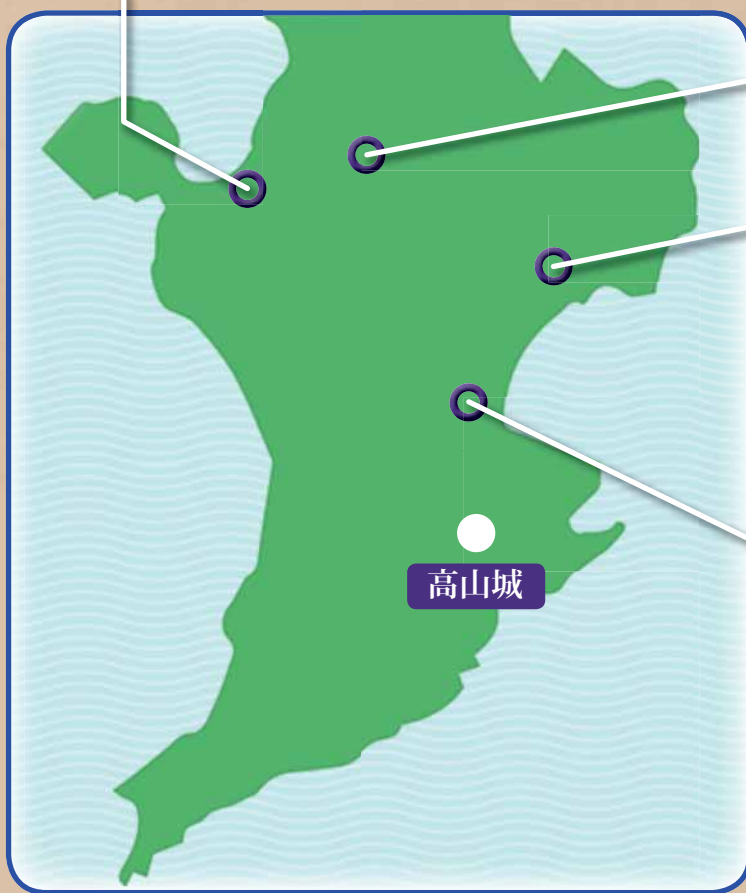
一時は島津氏を上回る勢力を誇っていた肝付氏。そんな肝付氏を支えたのが大隅国一円に分布した数多くの支城です。そのなかでも特に重要視されていたものが串良城や志布志城で、高山城と同等に扱われていたとの記録が残っています。また牛根城は、島津氏との最期の決戦の場になった城で、ここでの敗戦を受け島津氏にくだったとされています。

● 牛根城（入船城・松ヶ崎城）〔垂水市〕

薩摩と肝属の最期の決戦の場になった城で築城年代は不詳です。肝付氏はここを拠点に徹底抗戦しました。現在は堀や土塁などが残っています。

● 加世田城〔鹿屋市輝北町〕

川や谷などに守られた要害の地につくられた山城です。鎌倉時代の末期に肝付氏によって築かれました。一時島津氏に攻められ落城しましたが、天文年間に肝付兼統が奪回しました。肝付氏降伏後は島津氏のものとなりました。



● 志布志城〔志布志市〕

南北朝時代から戦国末期まで長期間、さまざまな勢力の居城として用いられた歴史の長い城郭です。永禄年間には、肝付氏が毎年のように攻め込み、永禄5年（1562年）、攻め落とし、肝付氏の城となりました。

● 串良城〔鹿屋市串良〕

肝付氏が重視していた支城のひとつで、もともとは島津氏の持ち城でしたが、大永3年（1523年）に肝付兼興が、城を奪いました。肝付氏降伏後は島津領となり、江戸時代には外城として御仮屋（休泊所）が置かれました。

高山城

○ 分家との関わりは？

肝付氏第4代の兼員のときに、次男である兼基が岸良の地に赴き、肝付氏から分家して初代の岸良氏を名乗りました。この岸良氏については記録が割と残っていて、肝付氏とは良好な関係を築いていました。ところが、内之浦氏となるとほとんどがわかっていません。内之浦氏の墓の形が岸良氏のものに似通っているため、兼基が岸良に赴いた時期に肝付氏の一族の中から内之浦にだれかが赴き、内之浦氏を名乗ったのかもしれないですが、わかっています。記録上わかっているのは、同じく肝付氏の分家である志布志の安楽氏が内之浦に攻め入り、内之浦氏をほろぼしたことです。おそらく肝付氏に刃向ったために、記録が残っていないものと思われる



町文化財保護審議会会長
海ヶ倉 喜通さん